

臨床推論

【単位数：1単位，授業17コマ，予備4コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

宮田靖志 教授（特任）（地域総合診療医学寄附講座）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅳ-1-b, Ⅳ-3-b, Ⅳ-4-b, Ⅳ-5-b, Ⅳ-6-b, Ⅳ-2-c）

患者の健康問題を正しく取り上げ，問題解決のための正しい思考過程と医師決断の方法の基礎を修得する。

（２）学修目標

- ① 臨床推論の全体像を説明できる。
- ② エビデンスに基づいた病歴と身体診察を説明できる。
- ③ 診断検査の正しい利用と解釈が説明できる。
- ④ 臨床推論のモデルを説明できる。
- ⑤ 認知バイアスについて説明できる。
- ⑥ ヒューマンファクターについて説明できる。
- ⑦ メタ認知と認知バイアス除去について説明できる。
- ⑧ ガイドライン，スコアの利用の仕方が説明できる。
- ⑨ 主要37症候・病態のうちの主なものについて診断推論ができる。

3 成績の判定・評価

（１）総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	60%	記述式及び多肢選択問題
課題レポート	○	40%	作成したプレゼンスライドと問題の内容，授業中のプレゼンの仕方，これらへの各自の貢献度（他者評価）
態度	○	—	授業妨害となるような態度不良が見られる場合は，総合判定から最大10点減点する。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）合格基準

評価対象の合計が60%以上で合格とする。

（３）再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。60%以上を合格とする。

（４）課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験で正答率の低かった問題，理解が不十分と思われた問題については，解説を一斉メールする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
ABC of 臨床推論 診断エラーを回避する	宮田靖志監訳 N.Cooper, J. Frain	羊土社	臨床推論の基本的な考え方が簡潔にまとめられている。
内科初診外来 ただいま診断中！	鋪野紀好	中外医学社	臨床推論の基本的な考え方が簡潔にまとめられている。
ジェネラリストのための内科外来マニュアル	金城光代, 金城紀与史, 岸田直樹	医学書院	よく遭遇する症候の診断推論が簡潔にまとめられている。
プライマリ・ケア診療 診断エラー回避術	宮田靖志編著	日本医事新報社	診断と診断エラー回避のための様々な概念が開設されている。
誤診の解体	宮田靖志監訳	MEDSi	実際の診断エラー症例の詳細な報告と分析が提示されている症例集である。
プライマリ・ケア現場で役立つ一発診断100	宮田靖志編著	文光堂	システム1による診断症例が簡潔にまとめられている。
プライマリ・ケア現場で役立つもつと！一発診断100	宮田靖志編著	文光堂	システム1による診断症例が簡潔にまとめられている。
プライマリ・ケア現場で役立つさらに！一発診断100	宮田靖志編著	文光堂	システム1による診断症例が簡潔にまとめられている。
迷いやすい症例から学ぶジェネラリストの診断力 総合内科はおもしろい！	宮田靖志編著	羊土社	よくある症例の診断過程を詳細に言語化し、医師が何を考えながら推論しているかが理解できるようになっている。
診断推論 奥義伝授	野口善令	日本医事新報社	臨床推論の基本的な考え方が簡潔にまとめられている。
誰も教えてくれなかった診断学	野口善令	医学書院	臨床推論の基本的な考え方が簡潔にまとめられている。
ティアニー先生の診断入門第2版	ローレンス・ティアニー・松村正巳	医学書院	臨床推論の基本的な考え方が簡潔にまとめられている。

6 準備学習（予習・復習）

★あらかじめ指定した6又は7人を1グループで割り当てられた1つの症候について授業中に20～25分で臨床推論の要点をプレゼンする。プレゼンするパワーポイントスライドとプレゼン内容に関する多肢選択問題3題をグループメンバー全員で協力して作成し、6月6日17:00までにAIDLE-Kに提出すること。内容を精査し、不十分と考えられた場合は修正を求める。

臨床推論の概念を簡単に頭に入れておくために、上に挙げた参考書のうち、どれか一つを通読しておく。（1コマあたり0.5時間）

事前に講義資料に目を通しておくこと。授業中には講義資料に沿って行うが、資料の解説は必要最小限にとどめる。

7 授業計画

（１） 講義の方法

各症候について、指定された学生グループが基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

講義資料に沿って行うが、資料を細かに説明することはしない。資料に沿って実際の臨床現場での推論の具体例を伝える。

（２） 講義の内容

20～25分で学生グループが各症候についてプレゼンする。その後、教員がその症候の臨床推論の概説を行う。